

## はじめに

今回、Raymond Murphy Essay Contest のスカラシップで、2週間イギリスに滞在し、沢山のことを得た。エッセイで述べたように、やはり英語はWi-Fiに過ぎないと実感した。Wi-Fiはインターネットにつながるための手段であるように、英語も人と関わるための手段なのである。これまで短期間ではあるが、カナダ、オーストラリア、そしてスペインなど様々な国に行き、いろんな国の人と関わり、培ってきた異文化コミュニケーションスキルを生かすことができた。

しかし、今回はイタリア、オーストリア、ブルガリアそしてスイス人などこれまで会ったこともなかった国の人に出会えたので、聞きなれないアクセントで理解するのに時間はかかったが、新しい文化、そして考え方に会い、さらに自分の視野が広がったと感じている。



## 学校生活

ベルケンブリッジ学校の授業はとてもProductiveで自分の意見、経験、国についてシェアする機会が多く、積極性が試された。一番驚いたことは、クラスのほとんどは高校生だったにもかかわらず、一人一人がしっかり自分の意見を持っており、それを積極的に発言していたことだ。最初の数日間、それに圧倒されていたが、この機会を無駄にしたくないという思い、そして大学の授業で学んできた英語で伝える力を生かして、アクティブにどんどん発言をしていった。また、普段関わることのない、ヨーロッパの人たちと関わったことはとても貴重な経験で、想像していたよりも日本に好感を持っている人が多く、沢山の人が日本に行ってみたいと言っており、日本人であることへの誇りを持たたと同時に、もっと英語で多くの外国人に、日本のことについて発信していけたらいいなと思った。特に驚いたことは、イタリア人の友達と日本の言語について話していた時に、カタカナ、平仮名、漢字、ローマ字は、それぞれどのように使うのか、と聞かれたことである。普段何も考えずに使っていたことだったので気にしたこともなかったが、質問をされて初めて日本語の面白さにも気づいたりもした。また、漢字には一つ一つ意味があり、私の名前の「聖菜」の聖はクリスマス生まれということから付けられたと説明した時、“Wow, this is so beautiful, I like it.” と感動してくれたことにも驚いた。イギリ



スの街並みは、違う世界に来ているみたいで感動的であるように、ヨーロッパの人もまた、日本の文化に対して同じように思うのだろう。



### 新たな発見

これまで美術に馴染みがなく、全く興味がなかったのだが、今回イギリスの美術館に行き、「この絵すごい！」「美しい！」などインスピレーションを感じ、美術館はとても魅力的な場所だと思った。これから、絵を通して自分の感性やセンス、そして想像力も磨いていきたいと強く感じる。新しいことにチャレンジしたり、馴染

みのない場所に行ってみると、思わぬ発見があるものである。これからの人生で、些細なことでもとりあえず何事にも関心を持ちアクティブに行動していきたいと思った。

### 意気込み

本当に2週間は、あっという間であったが、1日1日が濃く、語学学校で毎日沢山のことを得られた。自分の伝えたいことをうまく言えない時もあったり、ボキャブラリー不足と感じたり…毎日授業に積極的に参加し、家に帰って復習して…など必死になっていた2週間でもあった。英語学習に対する意欲がさらに高くなった。これから、もっと自分の意見、そして日本について英語で話すために、残りの大学生活を英語力向上に向けて、努力し続けていこうと思う。これから先、どんどんグローバル化が進み、日本でも沢山の国の人と関わることはビジネスでも増えていくだろう。その中で、先入観や差別観などの執着を手放し、必要に応じて柔軟に対応することが大切になってくると思う。また、相手の文化を受け入れ尊敬すること、共感、意思表示、オープンな心、そして自分の視点からだけでなく、視野を広げ、様々なアングルから物事を判断することこそが、私たちがこれから生きていくグローバル世界で、成功する秘訣なのかもしれない。この2週間で学んだ経験を生かし、そしてこれからも異文化に興を持ち続け、どんどん新しい発見をしていきたい。



### おわりに

このコンテストのオーガナイザーである、Grammar in Useの著者、Raymond Murphyさんと、ケンブリッジでお会いし、World English についてのお話も聞けて、本当に貴重な時間であった。そして、2週間ケンブリッジでこのようなすばらしい経験をさせて頂けたことに感謝したい。